

2021 年度 テクノ保育園 園評価

保育の理念・目標

【みんなが集うあったかい保育園】

- ・すべての人すべてのことに対し「あったかい心」がけを行い、みんなが集まるあったかい保育園を目指します

【育てたいこども像】

- ・主体的に取り組む子ども ・ 保育園が楽しい子ども

【目指す保育士像】

- ・「人権」に対する理解を深め、自分とちがう考えや意見を「違い」として排除せず「違い」を認めあえる保育士

○保育理念・目標は、毎年経験数または職種別にて勉強会を行い、職員全体に浸透するよう心がけている。また、保育従事者には人権擁護セルフチェックを行い、各クラスのリーダー層が率先垂範できるような体制づくりに努めた。前年度と比較して更に職員が各々主体性を持って活躍している姿が見られた。

○保育所保育指針と保育理念・目標の関係を理解し、保育過程が作成出来るよう、子ども主体の保育を実現させるために開発されたミマモリングソフトを活用し、一人一人の発達に留意した具体的な指導計画を作成する事ができた。保育士は、自らの保育実践を振り返り評価し、専門性の向上や改善に努めている。

○保育の内容は、子どもの発達過程やその連続性を踏まえ、保育や生活の中で「ねらい」や「内容」が達成されるよう、必要な事項に配慮して保育を行い、子どもたちが日々過ごすための安全な環境や適切な衛生状態に努めることが出来た。

○新型コロナウイルス感染症流行の中ではあったが、保育園の組織・役割分担に関わる様々な知識や技能の向上に努め、悩みや疑問を解決するため、研修に参加したり、専門書を読むなどして自己研鑽を行った。

○家庭・地域社会 家庭との連携を図るように努めている。関係機関と連携を図り、有効な対応に努めている。職員に園内で知りえた事柄に対しての守秘義務を周知徹底している。

○情報発信は、キッズダイアリーを通じて、なるべく早期に保護者や職員に施設の情報を発信するようにした。

総括

2021年度は、新型コロナウイルス感染症流行も2年目となり、園からコロナ感染者が発生した時も休園ではなく部分的休園にするなどして、感染症対策を講じながらも出来るだけ保護者の就労の妨げにならないように園運営を行って参りました。

2020年度には中止とした入園式や保護者オリエンテーションなども、保護者との信頼関係構築を図るうえで重要な行事だった事が反省として残っていたため、2021年度は、感染症対策を講じながら保護者の協力のもと無事に開催することができました。例年親子参加型で楽しんでいたスポーツデーは、感染者数が増加中で注意喚起が出ている時期にあたっており、参加人数を減らすために保護者は招待せずに子ども達だけで行うなどの判断をしました。

子ども達と職員だけで行ったスポーツデーは、発達過程に応じたねらいを基に、子ども達のがのびのびと体を動かして楽しむ姿が見られ、従来の形と変わっても子ども達の成長を育むことが出来たことが嬉しく感じました。

毎回の行事の見直しや、中止・延期の判断には度々保護者から残念だという声があがったのも確かで、毎回心苦しい決断でありました。すべて我慢して中止するのではなく、どのように工夫したら子ども達がわくわくする楽しい活動が出来るか考え実践した1年になったと思います。

しかし、行事内容の見直しなどを繰り返す中で、結果として保育者の業務負担軽減にも繋がり、保育者の仕事も本当にやらないといけない事なのか考え、必要なものと必要ないものをしっかり捉える良いきっかけにもなったと思います。